

「キッズ・ステーション」の保育プラン

この保育プランは「J キッズ・ステーション」の基本理念と運営コンセプトであるパーソナル・フリー・プランの保育時間のフレキシビリティを実行するためには、かかせない保育プランであり、クラス編成である。ここでのクラス編成は年齢別だけでなくこどもの成長・発達の月齢で編成し、担当する保母さんは生活担任とクラス担任に分けて、こども達の観察を中心にできるような個別保育を目指します。

1 あんしんクラス

0才児が中心であり、前期・中期のこどもで（月齢で3ヶ月からおよそ7ヶ月まで）

2 すくすくクラス

1才児が中心で月齢でおよそ後期の8ヶ月から15ヶ月まで

3 のびのびクラス

2才児が中心で月齢でおよそ16ヶ月から35ヶ月まで

4 いきいきクラス

3才児クラスで36ヶ月からのこども（3才児）

5 わくわくクラス

4才と5才児クラスで活動的なこどもが中心です。

各クラスのイメージ保育プラン

**0歳**  
**あんしんクラス**  
発達の環境のなかで・・・  
・1人1人にあわせてあんしん離乳食  
・のびのび赤ちゃん体操で運動神経の発達  
・スカイグラウンドでボカボカ日光浴  
・肌と肌のよれあいであんしん人間関係

**2歳**  
**のびのびクラス**  
やる気を大切にすると自信がついて  
自覚性も育ちます  
・1人でできる口/おまがえ、はみがき、おかたづけ  
・興味がいっぱい/はさみに粘土、絵の具や染紙  
・おとうさん、おかあさん待ってあげて  
こどもの1人で出来るよさをこびこびに

**1歳**  
**すくすくクラス**  
すくすくそだってね/みんなの愛情で  
・あそびの中で覚えようスプーンや  
おトイレなどの基本的な生活習慣  
・おはなし、うた、ゆびあそびで  
すくすくのばそり愛な感情

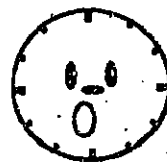
**3歳**  
**いきいきクラス**  
いきいき通じて育てよう創造力と社会性  
・牛乳パックや紙粘土など色々な  
素材を使った製作活動を通して  
1人1人の創造力と個性を  
ひきだそう  
・ごっこ遊びで育てよう社会性

**4～5歳**  
**わくわくクラス**  
作ろう/こどもたちのわくわく  
どきどき冒険  
・スポーツやケンケン  
（ファミリーサークル・園外スクール）  
色々な世代の人達とのよれあい  
（コミュニティステーション）の中から  
家族や地域をともに子供同士の  
絆を育てます  
・キッズマルチメディアを通して  
どうしてだろう？なぜだろう？などの  
子供の好奇心も大満足！

# ※ 駅型保育園 ※

## Jキッズステーション

### ぼくたち!わたしたち!の1日



0歳 (あんしん)

1歳・2歳 (すくすく・のびのび)

3歳~5歳 (いきいき・わくわく)

- 7:00 ママと一緒に登園
- 9:30 おやつ  
●フルーツやヨーグルトおいしいネ
- 10:00  
●楽しい音楽にあわせて手や足を動かしてみよう  
●スカイグラウンドでポカポカ日光浴
- 11:00 離乳食&ミルク  
●月齢にあわせて煮たりきざんだりしてくれるヨ
- 12:00 おひるね
- 3:00 おやつ  
●おいしい手作りおやついただきます
- 4:00 自由発想保育  
●お部屋で赤ちゃん体操  
●つかまり立ちやハイハイの練習がんばって!
- 5:00 お着替え
- 6:00 おむかえ  
●月齢や個人差にあわせておむつ交換やミルクの時間が入ってきます

- 7:00 ママと一緒に登園  
●ママの乗って行く電車見えるかな!  
●自由発想保育  
●積み木のお城作ってみよう  
●名前を呼ばれたら元気にお返事  
●おやつ
- 10:00  
●スカイグラウンドで全身運動  
●マットのお山やトンネルくぐりにボール、おもちゃを動かして!  
●好きな楽器をたたきながらうたってみよう
- 11:30 おひるごはん  
●1人でがんばろう!  
●スプンやはみがき、お着替えも
- 12:00 おひるね  
●楽しいおはなしを聞きながら眠りましょう...
- 3:00 おやつ
- 4:00 自由発想保育  
●はさみや粘土に絵の具  
●興味のあること思う存分やってみよう!
- 5:00 お着替え
- 6:30 夜ごはん
- 8:00 おむかえ

- 7:00 パパと一緒に登園  
●今日は保育園で朝ごはん  
●自由発想保育  
●折り紙で動物園つくれるヨ
- 10:00  
●どこのクラスにしようかな?  
●パソコンで昆虫の体のしくみも調べられるね  
●社会性を育てよう!  
●ごっこ遊びが本当遊び、みんなでパン屋さんにおやつを買いに行こう!
- 11:30 おひるごはん  
●苦手な食べ物にも挑戦!
- 12:30 おひるね
- 2:30 午後はみんなで一緒に  
●スカイグラウンドで体育教室  
●今日は体育のお兄さんにサッカーを教えてもらうヨ  
●おやつ
- 4:00  
●英語スクール  
●HELLO!みなさん英語スクールが始まるヨ
- 5:00 自由発想スクール  
●アメリカのパズルで想像力もりもり!
- 7:00 おむかえ

## Jキッズ タイムプラン

7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

パーソナルフリープランはAM7~PM8まで13時間を自由に御利用になれます

インゾーン

クラスゾーン

アウトゾーン

3時間

11:30

7時間

4:30

3時間

7時

10時

12時

2:30

17時

20時

生活担任子供の受け入れ

専門教室あり

専門教室あり

ゾーンも変りクラス担任から生活担任

自由発想保育 9:30

45分

昼食、きがえ、昼寝、

きがえ

45分二回

へ移り変わる、家族がむかえに来るの

からクラスゾーンの準備

で準備する。自由発想保育、遅くなる

生活担任からクラス担任へ

子供がいるので夜食もありえる、

スタッフ子供の移動あり

クラスゾーン

生活担任

10:00

12:00 クラス担任

17:00

生活担任

## 個人データ管理

こどもの情報をパソコン上のデータベースとして構築して利用するシステムです。家族調査表、成長記録、健康、ワンデーレポートそして教材などを考えています。また個人データベースはプライバシーの保護をしながら地域とのネットワークに有効的に活用できるように設計されます。

## インターネットによる情報サービス

インターネットではニュースグループの中に子育てに関するものが存在しますが、そこには専門家の情報がないので、このニュースグループなどに参加することで適切な情報とアドバイスを発信でき、またホームページを作成して、ここにアクセスすれば保育情報が自由に得られるように計画する。パソコン通信でもインターネットと同じように、専門家の保育情報を発信し、さらにその他メディアも活用して可能な限り地域社会の人が情報を得て、基本コンセプトである「保育を通して地域社会を育む」のため理解と協力を得ることが大事であると認識する。それにより企業で働くおとうさんも、子育てに参加できるようにネットワークの輪を広げて行きたい。

## 地域ぐるみのイベント・・・「父親参加」

サークルプランとは、こども達が1日を楽しみながら成長できるように“その子らしさ”を尊重した育児環境づくりを目指して地域に信頼され、愛される利用者本位の「Jキッズ・ステーション」となるようにスタッフ一同が取り組む。

### 1 コミュニティ・ステーション

核家族化が進む中で地域のいろいろな世代とサークルを通じてふれあうことができるよう、地域にネットワークの輪を広げ、地域世代交流を大切にす。またお年よりの方との交流などで若いお父さん、お母さんには先人の知恵を受け、さらに地域ボランティアの応援をいただきながら、家庭、保育園と地域社会が一丸となって積極的に育児サポートを推進する。

### 2 子育てサークル

スタッフと両親が安心できる人間関係を結びながら子育ての悩みや不安を解消できるプログラムがあり、その意味で母親同志の情報交換の場として子育てサークルが必要となる。

#### \*子育て新米ママ・パパのためのプログラム

安心できる人間関係の中で気持ちをリラックスさせて積極的育児に参加できる。

母親同志の育児への疑問、不安、悩みなどを出し合い、経験談や助言などをお互いに交換し啓発し合うためにフタツツに看護婦、管理栄養士、ベテラン保母が応援す

る。

### 3 ファミリー・サークル

スポーツやクッキング、音楽に手作り工作など楽しいサークルを通して家族のコミュニケーションを応援する。お父さん、お母さんのぬくもりがあるような「キッズ・ステーション」の中で親子交流の開催を行う。

#### 「キッズ・ステーション」インフォメーションシステム

##### こども個人情報

- ・家庭状況調査表
- ・成長記録
- ・健康管理
- ・ワンデイレポート
- ・教材

##### キッズマルチメディア

- ・絵本
  - ・英語
  - ・お絵かき
  - ・なぜなぜ教室
- (のりもの、どうぶつ、しぜん)



##### コミュニティー情報

- ・地域情報と
  - ・ファミリー情報と
  - ・ステーション情報と
- あつめて発信



ステーションを開放  
したサークル活動

##### パパ・ママ情報

- ・ワーク情報(勤務スケジュール)
- ・ステーション保育プラン
- ・料金管理システム
- ・キッズ成長記録



これらの情報をもとに  
した話し合い!

# サービスメニューについて

## ◆パーソナルフリープラン

- ・パーソナルフリープランとはお父さん、お母さんの出勤時間にあわせてタイムスケジュールが設定出来ます。これが**自由設計型保育**です。朝7時から夜8時には延長保育時間は含まれていませんので**13時間を通常保育時間**として御利用頂けます。

## ◆ポイントサービス

- ・それぞれの家庭のニーズにあわせて冠婚葬祭や学校の行事参加、カルチャーなど必要な時に必要な時間で平日及び土、日、祝日にも御利用頂けます。またポイントサービスとあわせて課外スクール（スイミングやパソコン教室）にも参加出来ます。

## デイサービス

- ・御家庭のニーズにあわせてお子様を1日単位（8時間）でお預かり致します
- ・御利用時間は朝7時から夜8時まで
- ・電話でも受付ます

## タイムサービス

- ・お子様を30分単位からお預かり致します（朝7時～夜8時）
- ・電話でも受付ます

## ナイトサービス

- ・お子様を1時間単位からお預かり致します（夜8時から）
- ・電話でも受付ます

## Toku<sup>2</sup>60

- ・このサービスは初めに60時間分のチケットをお求め頂きます
- ・このサービスは定期的に御利用になる場合に便利です（有効期限は2カ月）

## マザーリングサービス

- ・産前産後のお母さんの生活（炊事、洗濯、掃除、買い物など）を応援していきます

## ◆ステーションサークルプラン

- ・サークルプランとは子供達とのふれあいの時間を大切に考えています。さまざまなサークルやイベントを開催しJキッズステーションをひろく開放し地域・家族・母親・子供達と一緒にわくわく・ドキドキするような楽しいサークルにしていきます

## ファミリーサークル

- ・家庭の中のお父さんやお母さんの暖かい雰囲気とぬくもりをJキッズステーションの中に取り入れて子供が心身共に安心して生活出来る空間づくりと家族間のコミュニケーションを深めていくためにスポーツやクッキング・手作り工作などのサークルを開催していきます

## 子育てサークル

- ・子育て新米ママとパパのために安心できる人間関係の中で積極的に育児参加していくための新しいプログラムです。育児への疑問・不安・悩みまたは経験談など意見交換し啓発しあう中でJキッズステーションのスタッフ（看護婦・栄養士・保母）が離乳食講座やケガや病気等の処置方法などのサークルを開催していきます

## ◆コミュニティステーション

- ・Jキッズステーションは、夕涼み会やもちつき会などのサークルやイベントにおいて**屋上運動場**（スカイランド）などを、おおいに利用していきながら地域交流を大切にし地域のいろいろな世代の人とふれあいながら学んでいきたいと思っております。

## 職員配置及び人材確保

### 1 フレキシブルな職員・非常勤勤務シフト（日案）

日案における勤務時間は利用者のニーズによって異なるが、原則早番（7時～16時）、日勤（8時～17時）、遅番（11時～20時）となるが、原則フレックスタイム制で考えいく必要がある。それは、各年齢に伴う必要人員は非常勤職員も含めて採用予定となっている。また（図参照）A1からK10は契約職員であり、1年ごと契約を見直し更新するかどうかを双方で決める。また、P1からP7は約8名～9名の契約非常勤であり、時間給で対応する。また、契約職員・契約非常勤とも3交代制の勤務割を中心的に契約職員が朝の「インゾーン」と夕方の「アウトゾーン」を担当し、その補佐するのが契約非常勤である。

「国分寺」キッズ・ステーション」の業務をイメージする

#### 役職名及び業務職名

ステーション・マスター	・・・・・・	経営責任者
ステーション・リーダー	・・・・・・	園長
ステーション・サブ・リーダー	・・・・・・	副園長
フロアー・リーダー	・・・・・・	主任保母
キッズ・スタッフ	・・・・・・	契約保母
アクテブ・キャスト	・・・・・・	ワンポイント・非常勤保母
クリエイティブ・キャスト	・・・・・・	専門教室講師
ソウシャル・キャスト	・・・・・・	ボランティア

### 2 勤務シミュレーション

契約職員と契約非常勤とのバランスの取れた勤務が1年をサイクルにして、バランスの取れた勤務割が必要となる。その理由として4週8休制度における週休2日を契約職員に対して行うことであり、また利用者のパーソナル・フリー・プランの導入に伴い、利用者のインとアウトにおいてもフレックスであるので契約職員の勤務も当然フレックスとなる。利用者のニーズに合った効率的な勤務割が管理上必要となるので、利用者ニーズに合わせた勤務シミュレーションを作成するためには利用予約制度を導入すること、このパーソナル・フリー・プランと連動する勤務予定表を一元的にコンピューターで管理することが最も必要である。

## J キッズ・ステーション勤務配置（日案）

クラス	人数	必要実員	7:00	8:00	11:00	16:00	17:00	20:00
1F	0歳	10 (7名)	3名	早	A 1		P 1	
				P 2	日	B 2		
				遅	C 3			
1F	1歳	20 (15名)	3名		D 4		P 3	
					P 4		E 5	
						F 6		
2F	2歳	20 (6名)	2名		G 7		P 5	
					P 6		H 8	
2F	3歳 ～ 5歳	10 (2名)	2名		J 9		P 8	
					P 7		K 10	
実人員			契約職員 10名					
10名			非常勤 8～9名					

\* 契約職員の勤務は基本的には早・遅・日に分けるが、勤務時間帯はフレックス制とする。

\* 非常勤も必要時間において当てはめるため、フレックス制とする。

\* 各クラスは1階と2階に大別して、発達年齢別でクラス分けする。但し料金は誕生日で計算されるものとする。

### 3 採用計画（契約職員・契約非常勤及びその資格条件）

この駅型保育園につきましては従来の認可並びに無認可の保育施設とは違い、柔軟な保育サービスを「J・キッズ・ステーション」の理念である、単なる子育て支援と考えず、家族並びに利用者のライフスタイルを応援することである。その意味でここに従事する契約職員はなるべく、従来の保育で永年保母として勤務した者だけを対照にはせず、多様な考え持ち若手で柔軟な人柄と「子供が大好きな方」を選考基準として10名採用しました。その内、保母資格有する者は5名、幼稚園・小学校・中学校・高校の教員免許を有する者が4名、そして1名は資格はありませんが、海外での留学経験と英語が堪能であります。年齢構成も平均で27、5歳であり、若手中心の活気あふれることでしょう。そして契約非常勤の方々におきましても沢山の応募の中からフレックスに勤務ができることと保育及び育児経験のある方を中心に面接採用し現在約10名程が決定しています。応募に来た方は、この駅型保育園の理念に賛同し、自分達の過去の経験がいかされること。そして、勤める方々にとっても駅で利便性がよいことが応募の動機となってる。

また今後の人材の育成と保育サービスを提供するための質的なマニュアルとその評価システムができることが、ニーズの多用化に伴うサービスの質を保つ要因となるのです。また、利用者にとって解りやすくするためのシステムをコンピューターの導入で考え、例えばワンデイ・レポートとしての保育情報を交換するための手段として情報公開することができるのです。また、従来の保母資格だけにこだわらない人材確保を目指すためにも、今後は、保育従事者が総てのニーズに応えるは不可能であり、望むべきでないとも考えます。それは既に前述したように利用者は保育だけでなく将来の子供達が21世紀を担う以上、個々の能力及び心身の発達の上で必要な個別保育と教育を望んでいるのです。その意味で1日のカリキュラムの中に専門教室を担う外部講師の配置と積極的なボランティアの導入することがで、従来型の教育ではない、「Jキッズ・ステーション」の理念でもある「子供文化の想像」を地域を巻き込みながら行うことである。

### 4 生活担任とクラス担任制度の導入（インゾーン・クラスゾーン・アウトゾーン）

基本コンセプトの自由設計型保育システムは1日の保育時間が個々に違うために様々な時間帯での受入れを柔軟に対応することを必要とする。そのためには、前述したようなインとアウトゾーンの朝と夕方を送り迎え時に的確アドバイスを保護者との対話を必要とするために格生活担任によるONE DAY レポートの提出と説明ができることが大事である。なるべくならこの任に当たるのは同一人物が好ましいが1日の保育時間が子供により長くなるため必ずしも一致しないことも想定される。それゆえにフローアー・リーダーを専任し必ず情報の引き継ぎを生活担任から受けることが大事である。その際に威力を発揮するのがコンピューターによる情



報管理システムであります。次にクラス担任であります、このクラスとは3、4、5才で、より個別的な保育に重きをおいたものである。0、1、2歳児の場合でもこどもの成長・発達の度合での保育を中心としたクラスとなるのです。その意味でクラス担任は大きな役割をクラス・ゾーンの午前10時から午後5時ごろのまでの個別保育を目的とした内容で自由想像型教室が開かれるのです。例えば午前は屋上のスカイグラウンドで「のびのびあそび」また、近くの公園で「自然ふれあいさんぽ」また4、5歳児はスミング教室など、また専門教室としての英語教室・造形教室などを専門の先生を招いて行うことも予定しています。そして1日の午睡後には第2回目の専門教室が予定されています。いずれも月単位でカラキュラムを開示する情報を利用者また家族にはコンピューターで常に情報提供することが大事となる。次に大事なのはタイム・サービスやデイサービスを実施するためには利用者が選択できるためのプログラムを明確示すことで、申し込み予約を取ることができるようになる。これも「Jキッズ・ステーション」の特色で月極め契約児以外の方々に週2回～3回の利用をこの専門教室めがけて申し込むことができるのです。これらのクラスゾーンにおける個別的な保育及び教育的保育を担うことができます。また、専門教室担当を置くことでより柔軟な対応と保育内容の充実を目指すこともできるのです。

## Jキッズ タイムプラン

7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
パーソナルフリープランはAM7~PM8まで13時間を自由に御利用になれます													
インゾーン 3時間			クラスゾーン 7時間						アウトゾーン 3時間				
7時	10時		11:30		12時		1:30		4:30		17時		20時
生活担任子供の受け入れ 自由発想保育。9:30 からクラスゾーンの準備 生活担任からクラス担任へ スタッフ子供の移動あり			専門教室あり 昼食。おがえ。昼寝。 おがえ						専門教室あり おがえ 45分二回 ゾーンも変りクラス担任から生活担任 へ移り変わる。家族がわかえに来るの で準備する。自由発想保育。遅くなる 子供がいるので夜食もありえる。				
生活担任			10:00		12:00		クラス担任		17:00		生活担任		

巻末資料 2

ベビーシッターサービスの利用者の実態  
と意識に関する調査

ベビーシッターサービス利用者の実態と意識に関する調査

ーベビーシッターが担う育児支援の意義を探るー

(株) ファミリー・サポート          中館 慈子

東京大学大学院教育学研究科          坂上 裕子  
(群馬大学教育学部、実践女子大学 非常勤講師)

## 方法

### 調査実施時期

1999年6月。

### 調査実施方法

当社サービス利用者名簿の中から無作為に300家庭を抽出し、質問紙を郵送した。このうち回答を得られたのは121家庭であり、回収率は40.3%であった。

### 調査内容

調査の内容は、1. 利用者の属性、2. 当社サービスの利用状況、3. ベビーシッターサービスに対する考え、の主に三部から構成された。以下に、それぞれの内容を記す。

#### 1. 利用者（保護者、子ども）の属性

- ①保護者の職業（自由記述式）
- ②保護者の年代（自由記述式）
- ③世帯全体の税込み年収（自由記述式）
- ④主に育児に携わる者（母・乳・祖母・おば・その他の中から選択）
- ⑤シッティング対象児の年齢
- ⑥シッティングの対象となる子どもの人数

#### 2. 当社サービスの利用状況：

##### ①利用サービス内容

当社が提供している以下の6つのサービスの中から、これまで利用したサービスを選択してもらった。

- 育児のサポーター（新生児から未就学児までを対象としたサポート）
- 学童サポーター（小学生の子どもを対象としたサポート）
- ポータージサポーター（心身の発達に偏りや遅れのある子どものサポート）
- 産後のサポーター（出産前後の母親のサポート）
- チューター（ファミリー・サポート独自の家庭教師）
- グループ保育（団体・法人を対象とした、複数の子どもの保育）

##### ②利用時・利用目的

どのような時に、どのような目的で当社のサービスを利用したかを、12の選択肢の中から選択してもらった（複数回答可、選択肢については表9参照）。

##### ③サービスに対する満足度

当社のサービスに対してどの程度満足しているかを、4つの選択肢（「とても満足している」「満足している」「ふつうである」「不満がある」）の中から選択してもらった。

##### ④満足した点

③「サービスに対する満足度」で、回答として「とても満足している」「満足している」を選択した人にも、回答を求めた。当社のサービスのどのような点に満

足したかを、5つの選択肢（「時間の融通が利き、いつでも利用できる」「家庭の育児方針を尊重してくれる」「個別保育ならではのきめ細やかな保育をしてくれる」「育児の相談をしたり、アドバイスを受けたり出来る」「その他」）の中から選択してもらった（複数回答可）。

⑤不満な点（自由回答）、

③「サービスに対する満足度」で、回答として「不満がある」を選択した人に対してのみ、回答を求めた。

3. ベビーシッターサービスに対する考え

①サービス利用者の利用意識

在宅保育サービスについて、どのように考えているかを、次の6つの選択肢の中から一つを選択するよう、求めた。

「緊急時、非常時にとりあえず子どもを安全に預かってくれるサービス」

「保育所などに入れられないため、または保育時間外等にやむを得ず利用するサービス」

「家庭の育児方針に沿って家庭での育児を暖かく援助するサービス」

「家庭での育児にアドバイスをすることもできる保育専門家としてのサービス」

「働く女性を支援する託児サービスの一つ」

「一部の人が利用する少し贅沢なサービス」

②料金、資格についての考え

ベビーシッターの料金、資格に関して、6つの質問を用意し、それに対し、「そう思う」、「そう思わない」、「分からない」の中から回答するよう求めた。

## 結果と考察

以下に、各問に対する回答の主な結果を示す。

### 1. 利用者の属性

#### ①保護者の職業

表1 父親の職業

会社員	64 (53.8)
医師	17 (14.3)
会社役員	10 (8.4)
教職・研究職	9 (7.6)
公務員・団体職員	8 (6.7)
マスコミ関係	4 (3.4)
その他	4 (3.4)
自営	3 (2.5)

(有効回答数119) (%)

表2 母親の職業

専業主婦	42 (36.2)
会社員	26 (22.4)
医療関係 (医師・薬剤師等)	14 (12.1)
医師	10 (8.6)
医師以外 (看護婦、医療事務等)	4 (3.5)
教職・研究職	12 (10.3)
公務員・団体職員	8 (6.9)
自由業 (通訳、翻訳業、 文筆業、Gデザイナー等)	7 (6.0)
会社役員	4 (3.4)
自営	1 (0.9)
その他	2 (1.7)

(有効回答数 116) (%)

保護者の職業としては、父親では会社員が過半数を占め、以下、医師や会社役員が続いた。母親に関しては、専業主婦が36.2%であり、残りの63.8%が有職であった。母親の職種では、会社員(22.4%)以外に、医療関係や教職・研究職などの専門職が合わせると22.4%と、目立っている。

#### ②保護者の年代

保護者の年齢では、父親は30代が56.0%、40代が37.9%と、3,40代に集中していた。母親では、30代が75.9%を占めた。

表3 保護者の年代

年代	父親 (%)	母親 (%)
20代	2 (1.7)	5 (4.5)
30代	65 (56.0)	85 (75.9)
40代	44 (37.9)	22 (19.6)
50代	5 (4.3)	0

(有効回答数 父親 116, 母親 112) (%)

#### ③世帯全体の税込み年収

世帯全体の年収では、1000万以下の家庭が全体の半数近くの46.6%を、また1001万以上2000万以下の家庭が36.4%であり、2000万以下の家庭が合計で全体の83%を占めた。

表4 世帯全体の税込み年収

年収	世帯数 (%)
1000万以下	41 (46.6)
1001万以上2000万以下	32 (36.4)
2001万以上3000万以下	8 (9.1)
3001万以上	7 (8.0)

(有効回答数 88)

④主に育児に携わる者

主に育児に携わるのは母親が98.3%と圧倒的に多いが、父親が育児に携わると回答した家庭も約4割あった。これは高い数値のように思われるが、当社を利用利用している家庭の約6割が、父母ともに就労している家庭であるためだろう。

表5 主に育児に携わる者

母	117	(98.3)
父	47	(39.5)
祖母	7	(5.9)
その他	3	(2.5)

(有効回答数 118, 複数回答あり) (%)

⑤シッティングの対象児の年齢

当社では学童のサポートも行っているため、学童が全体の14.0%を占めるが、86%は未就学児である。未就学時の中では、3歳未満児が36.6%、3歳以上児が49.4%と、3歳以上児の割合の方が若干高かった。

年齢では、人数が多かった年齢上位3つを挙げると、3歳、1歳、2歳の順に多かった。

表6 シッティング対象児の年齢

年齢	人数	(%)	
0歳	15	(8.7)	
1歳	26	(15.1)	3歳未満児
2歳	22	(12.8)	63人(36.6%)
3歳	32	(18.6)	
4歳	16	(9.3)	3歳以上就学前児
5歳	21	(12.2)	85人(49.4%)
6歳	16	(9.3)	
7歳	11	(6.4)	
8歳	8	(4.7)	学童
9歳	4	(2.3)	24人(14.0%)
10歳	1	(0.6)	
合計	172		

(N=120)

⑥シッティングの対象となる子どもの人数

シッティングの対象となる子どもの人数については、1人が65.8%ともっとも多いが、利用者の34.2%は、複数の子どもに利用している。

表7 シッティング対象の子どもの人数

1人	79	(65.8)
2人	38	(31.7)
3人以上	3	(2.5)

(有効回答数 120, ( )は%)

## 2. 当社サービスの利用状況

### ①利用サービス内容

利用サービス内容では、育児のサポーターを利用した家庭が全体の91.0%と目立っている。ついで、学童サポーター、ポーター、サポーターの利用家庭がそれぞれ、全体の10%前後あった。

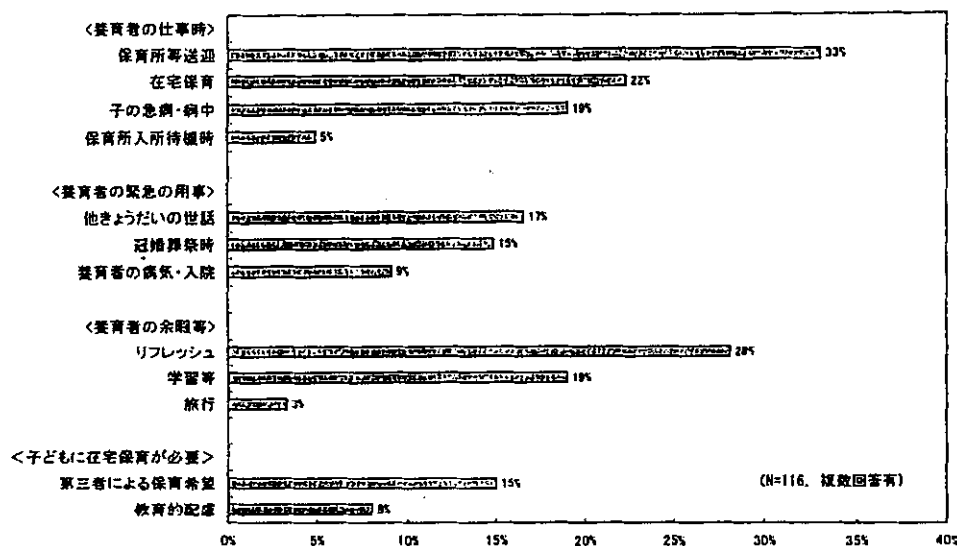
表8 利用サービス内容

利用サービス	利用者数(%)
育児のサポーター	101 (91.0)
学童サポーター	13 (11.7)
ポーター	11 (9.9)
チューター	7 (6.3)
産後のサポーター	5 (4.5)
グループ保育	3 (2.7)

(有効回答数 111, 複数回答あり) (%)

### ②利用時・利用目的 (12の選択肢の中から選択、複数回答可)

表9 利用時・利用目的



利用時・利用目的の中でももっとも多かったのは、「養育者の仕事時」の利用であった。その中でも特に、「保育所等の送迎時」の利用が多く、サービス利用家庭のほぼ3分の1が利用しているという結果が得られた。これは、普段から二重保育を必要としている子どもがいる家庭での利用が多く、保育所などの保育サービスを補完する形でベビーシッターサービスが利用されていることが伺える。いっぽう、同じ養育者の仕事時の利用でも、「在宅での保育」を利用目的に挙げた家庭も22%あった。これは、保育所などの保育サービスの補完としてではなく、より積極的に、家庭での保育

を主目的にベビーシッターを利用している家庭がある程度の割合で存在していることを意味している。

利用時・利用目的として、二番目に多かったのは、「養育者の余暇等」の際の利用であり、28%の家庭が、養育者の「リフレッシュ」時に、19%が「学習等」時に利用する、と回答していた。この調査では、どのような人が余暇の際にベビーシッターサービスを利用していたか、細かいところまでは分からないが、こうした際の利用があるということは、ベビーシッターサービスの利用が、親が「個人」としての充実感や満足感を得られる時間を得るのを援助する、あるいは、親の育児ストレスの負担を緩和する、という、積極的な意義を果たしている可能性があることを示唆していると言えよう。

「養育者の緊急時の利用」という一時的な利用については、上記の2つに次いで多い、という結果になった。

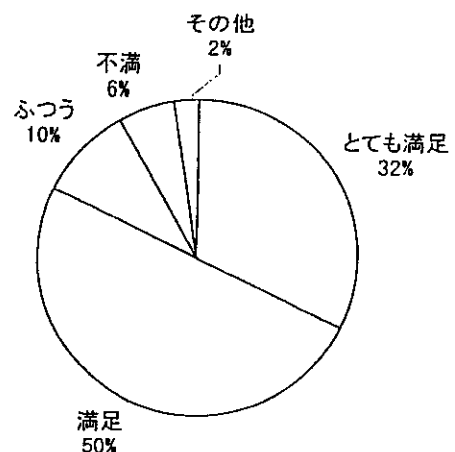
割合としてはもっとも低くはあったものの、ベビーシッターの利用時として、「子どもにとって在宅保育が必要だと思われたとき」、例えば、「家庭以外の第三者の保育を希望するとき」「教育的配慮を希望するとき」を回答した選んだ人も、それぞれ全体の1割前後いた。これは、ベビーシッターサービスならではの、子どもにとっての積極的な養護・教育上の意義を求めてサービスを利用する人が一定数いることを示唆している。回答者の自由記述の中には、「保育園に長時間いると子どもが疲れる」

「保母の人数が少なく、十分な保育が望めない」とその理由を述べるなど、保育所保育の補完としてではなく、むしろ保育所保育では得られない質的なものを求めてベビーシッターを利用している、という声があった。また、「少子化や核家族化の中では、昔のようなメリハリのある、しかも余裕を持った育児というのは第三者の手を借りなければ難しい状況になっている」(30代、男性)という声もあった。

### ③サービスに対する満足度（4つの選択肢の中から選択）

サービスに対する満足度では、「とても満足」と「満足」が合計すると82%と、多数を占めた。

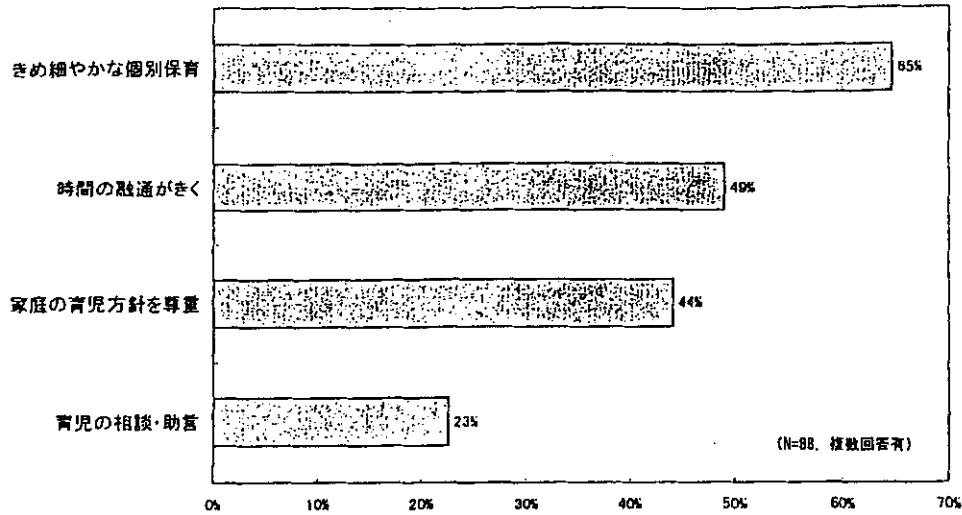
表10 利用者満足度





④満足した点（4つの選択肢の中から選択、複数回答可）

表11 満足した点



この設問の回答者は、前設問「サービスに対する満足度」で、「とても満足」あるいは「満足」と回答した人に限られている。

満足した点としてもっとも多く挙げられたのは、「きめ細やかな個別保育」が受けられる(65%)、ということであった。また、「家庭の育児方針を尊重」してくれる、という回答も、回答者の44%に見られた。先の2-②の設問、「ベビーシッターの利用時・利用目的」で、「養育者の仕事時の、保育所等の送迎」を挙げた人の割合が多かったことから読みとれるように、ベビーシッターサービスというと、一般には保育所保育の補完、と捉えられがちである。確かにそうした一面があることも事実だが、いっぽうで利用者の意識としては、単なる保育所保育の補完以上の意味があるものとして受け止められていることも、この2-④の設問からは伺える。すなわち、ベビーシッターサービスは、利用者からは個々の家庭の育児や、個々の子どもの育ちを援助する、という積極的な意義があるものと受け止められており、それが利用者の満足感につながっていることが分かる。

また、回答者の23%は、「育児の相談・助言」を、満足した点として挙げている。これは、昔に比べると育児の相談や助言を受けにくい現在の子育て環境において、親の支援という積極的な意義を、ベビーシッターサービスが果たしていることを示唆するものであろう。

その他に、自由記述欄で挙げられた満足点としては、「親とは違ったことをしてくれる」「肉親以外の人からの愛情が得られる」「シッターとの相性がいい」「シッターの人柄がいい」などの回答があった。

### ⑤不満な点（自由記述による回答）

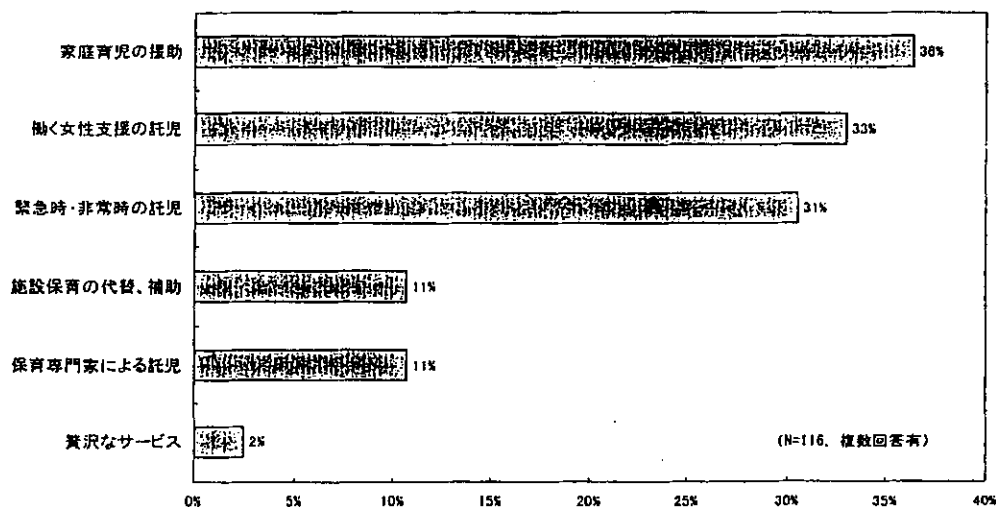
不満な点は、主に次の二点に集約できる。一つは、派遣される人が途中で変わってしまう、という点、もう一つは、派遣される人の側の問題（ベビーシッターとしてのスキルが低い、子どもと相性がよくないなど）である。これは、ベビーシッターという仕事が、子どもと1対1のつき合いであるがゆえに、殊に、個々のシッターの資質が問われるものであることを反映していると言えよう。これに対しては、会社の側の人材管理のあり方や社員教育を改善していくことによって対処する必要があるだろう。

## 3. ベビーシッターサービスに対する考え

### ①サービス利用者の利用意識

利用意識については、6つの選択肢の中から1つを選択するように求めたが、複数回答として選んだ人が相当数いたため、合計の%は100を超えている。

表12 サービス利用者の利用意識



サービス利用者の利用意識として、回答者が選択したものの上位3つは、「家庭育児の援助」(36%)、「働く女性支援の託児」(33%)、緊急時・非常時の託児(31%)であった。家庭育児の援助は、核家族化が進み、地域の教育力が低下したと言われる現在の社会状況において、もっとも求められている機能であるということができよう。また、働く女性にとっては、それを支える託児サービスの一つとして、必要なものであるということができよう。

「施設保育の代替、補助」と位置づけている人は、全体の1割程度と、少なかった。また、「保育専門家による託児」と回答した人は、全体の1割程度に過ぎなかったが、今後は、ベビーシッターが他の保育サービスと並んで、保育の専門家であるという社会的認知が広がるよう、シッターの資質の向上に努めていきたい。

次に、より細かく利用者の意識について検討するために、家庭の労働形態別に、サービス利用者の利用意識を調べてみた。

表13 家庭の労働形態別にみた、サービス利用者の利用意識

サービス料金の利用意識	父・母有職家庭 (n=70)	母専業主婦家庭 (n=37)	合計 (n=107)
家庭育児の援助	24 (34.3)	18 (48.6)	42 (39.3)
働く女性支援の託児	35 (50.0)	3 (8.1)	38 (35.5)
緊急時・非常時の託児	15 (21.4)	17 (45.9)	32 (29.9)
保育専門家による託児	9 (12.9)	4 (10.8)	13 (12.1)
施設保育の代替、補助	9 (12.9)	3 (8.1)	12 (11.2)
贅沢なサービス	0 (0.0)	2 (8.1)	2 (1.9)

(( )は各群における人数比(%))

(有効回答数 107、サービスの捉え方については複数回答あり)

この表からは、父母ともに有職（あるいは一人親家庭で親が有職）の家庭では、働く親の支援の託児サービスとして(50.0%)、また、家庭育児の援助(34.3%)として、ベビーシッターを捉えている人が割合的に多いことが読みとれる。

いっぽう、母親が専業主婦の家庭では、家庭育児の援助として捉えている家庭がもっとも多く(48.6%)、それに次いで、緊急時・非常時の託児サービスとして捉えている家庭が多かった(45.9%)。

このように、父母の就労形態によって、利用者のベビーシッターサービスのニーズは若干異なることが伺えるが、父母ともに有職の家庭、母親が専業主婦の家庭のいずれにおいても、ベビーシッターサービスが家庭育児の援助として位置づけられていることは、注目に値することであろう。

②料金、資格についての考え

表14 ベビーシッター料金・資格についての考え

	そう 思う	そうは 思わない	分から ない
a ベビーシッター料金は高すぎる	51 (44.3)	43 (37.3)	21 (18.3)
b ベビーシッター料金に対する公的補助金制度 が必要である	98 (86.0)	4 (3.5)	12 (10.5)
c ベビーシッター料金を税金の控除対象にして ほしい	92 (82.9)	9 (8.1)	10 (9.0)
d 全ての保育サービスに利用できるクーポン券 のような制度（バウチャー制度）を希望する	64 (58.7)	18 (16.5)	27 (24.8)
e ベビーシッターの公的資格があるとよい	79 (70.5)	21 (18.8)	12 (10.7)
f 現在ある在宅保育サービス券が、もっとたくさ ん利用できるとよい	69 (65.7)	3 (2.4)	33 (31.4)

(有効回答数は、質問によって異なる) (( )は%)

・設問 a に関して

一般に、ベビーシッター料金は高いと捉えられがちであるが、実際の利用者では、「高いと思う」と答えた人は回答者の半数以下の 44.3%にとどまり、「高いとは思わない」と答えた人が全体の 37.3%と、意外に高い数値を占めた。しかしながら、このアンケートの回答家庭は、少なくとも現時点でベビーシッターサービスを利用できる金銭的なゆとりのある家庭である、という点で、ベビーシッターサービスの料金に対する一般的な考えの反映とは言えない可能性もあることを付加しておく必要があるだろう。

・設問 b,c に関して

いっぽう、「ベビーシッター料金に対する公的補助金制度が必要である」、と思う人、「ベビーシッター料金を税金の控除対象にして欲しい」と回答した人は、いずれの設問でも 8 割を超え、多くの人々がベビーシッターの利用に際して、何らかの形で公的な補助あるいは配慮が必要であると考えているようである。

・設問 d,f に関して

バウチャー制度や在宅保育サービス券の利用に関する設問では、それを希望する人はいずれの設問でも全体の 6 割前後であった。これらの設問に関しては、「分からない」と答えた人がそれぞれ 2～3 割存在した。在宅保育サービス券の存在や、バウチャー制度の構想は、あまり知られていないようである。

・設問 e に関して

「ベビーシッターの公的資格があるとよい」と思う、と答えた人は全体の 7 割を超えたが、一方で、「そう思わない」「分からない」という回答も 3 割近くあった。理由としては、「資格だけで、人柄や経験ははかれない」ということのようなものである。

・最後に、その他に、ベビーシッターの資格や料金について利用者が述べていた考えの